SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

静岡県引佐町谷下産ワニ化石（地学散歩(19)）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-07-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松北高等学校地学部 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025605

静岡地学第39号（1979）

静岡県引佐町谷下産ワニ化石

浜松北高等学校地学部*

地学散歩（19）

昭和43年に浜名湖北東の引佐町谷下の石灰岩採石場の層理を示す洪積泥層中からワニ化石が発見された。その後、ワニ化石は約10体、その他、カワウソ、シナガメ、無数のコイ、フナ、ディスティコドン（現在の中国大陸揚子江流域に生息するコイ科の淡水魚）、ナマズ亜科などの淡水魚化石が採取されている。

この化石を含む赤褐色粘土層は古生層石灰岩の割れ目に堆積したものである。この化石の時代は、浜名湖周辺の三方原台地下の佐浜泥層と同じ時代、すなわち、洪積世後期のリス・ウルム間氷期とされている。なお、化石の種類から、リス・ウルム間氷期には、日本は大陸と陸続きであったろうと想像される。

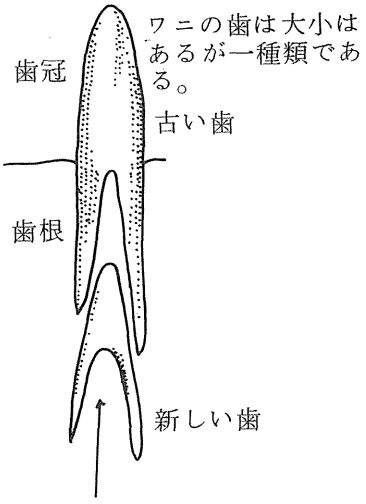
この谷下ワニは、歯、口、体長、後頭骨の研究から、現棲のマライガビアルワニと同種であった。このマライガビアルの体長は3～5*m*と小さく、おもに淡水魚を食べるため、口（吻・ふん）が大変長く、歯も細く内側に曲っている。生息地域は、ジャワ・ボルネオ・マライ半島の淡水域である。この谷下でも、ワニ化石を含む地層には、数千万匹と推定される淡水魚化石が含まれる。

このワニ化石の下顎骨についている歯を調べていたとき、古い歯が「ポコッ」と取れ、その下から、同じ形の新しい歯がでてきたのには驚いた。ワニ（クロコダイル）の語源は「石ころ」ということだが、今から十数万年前（？）の「石ころ」から、1つの「自然の妙」を見、感動した。

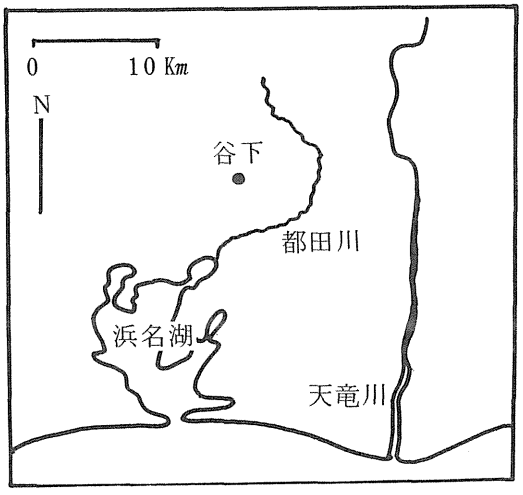
大阪大学理学部構内で発掘されたマチカネワニは、ギュンツ・ミンデル間氷期とされ、谷下ワニの時代より古い。このワニは頭骨105.5*cm*、全長8*m*もあり、あのどう猛な人食ワニ、「イリエワニ」の仲間とされている。生息地域は、アジア大陸の南の全海岸の汽水、海水地域である。

日本には、ワニのことを書いた古文書も多い。四国の金刀比羅神社の御神体の一つは竜骨という。この竜骨こそ、「イリエワニ」ではないかという。

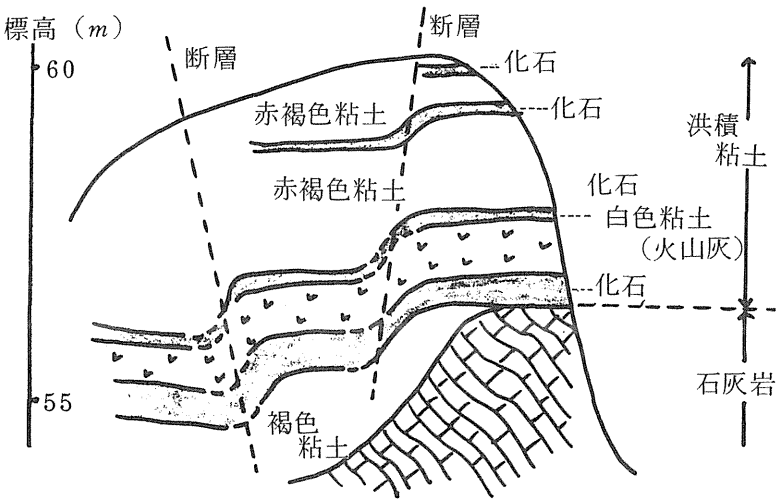
また、この谷下の石灰岩の上部割れ目の粘土（ワニ化石を含む地層の上）から沢山の陸棲動物化石を採取した。その種類は、ニッポンシカ、ニホンザル、イタチ、アナグマ、タヌキ、トラ、オオカミ、クズウテン、キクガシラコウモリ、ハタネズミ、ヤチネズミ、ジネズミ、ニッポンモグラジネズミ、アカネズミ、ヒミズモグラ、キジ、ナウマンゾウ、イノシシなどである。



ワニの歯のはえかわり方
（図1）

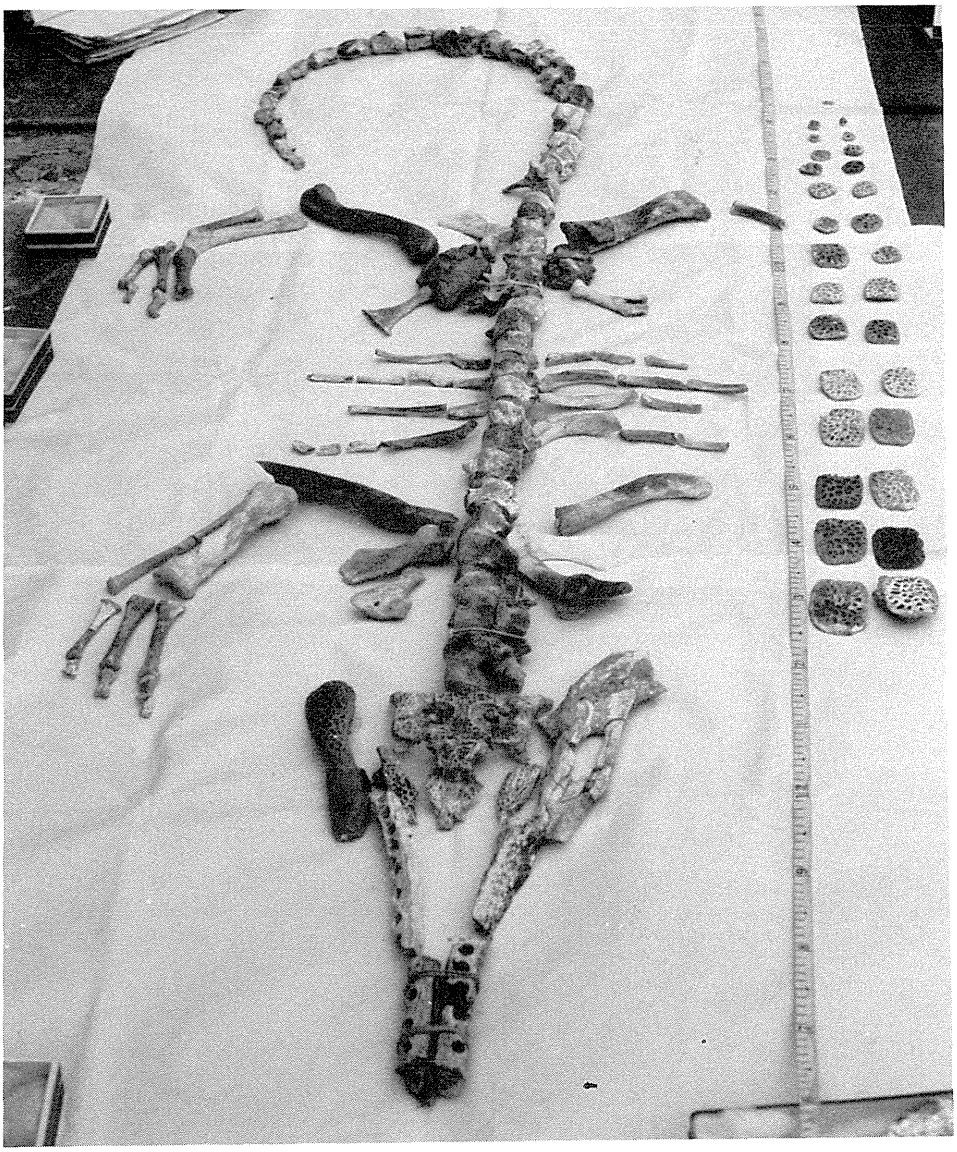


静岡県引佐町谷下位置図（図2）



谷下の模式地質断面図（図3）
（石灰岩の割れ目堆積層）

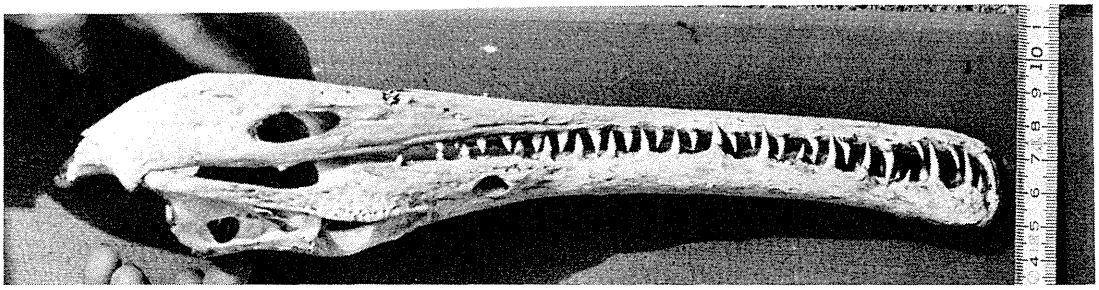
*顧問　野島宏二

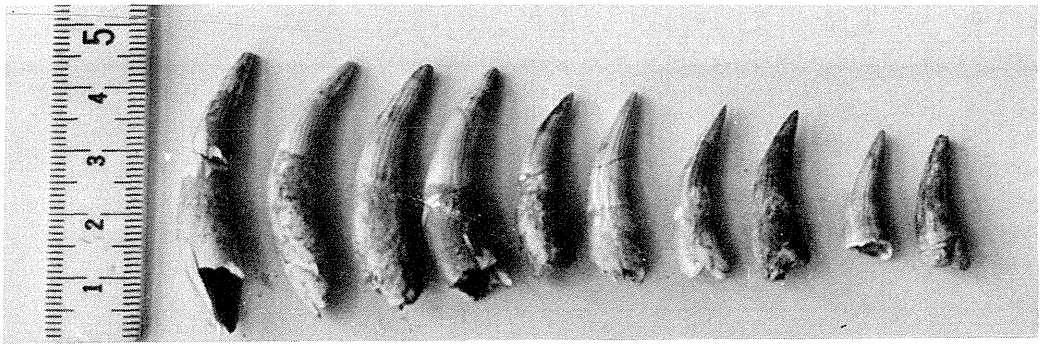


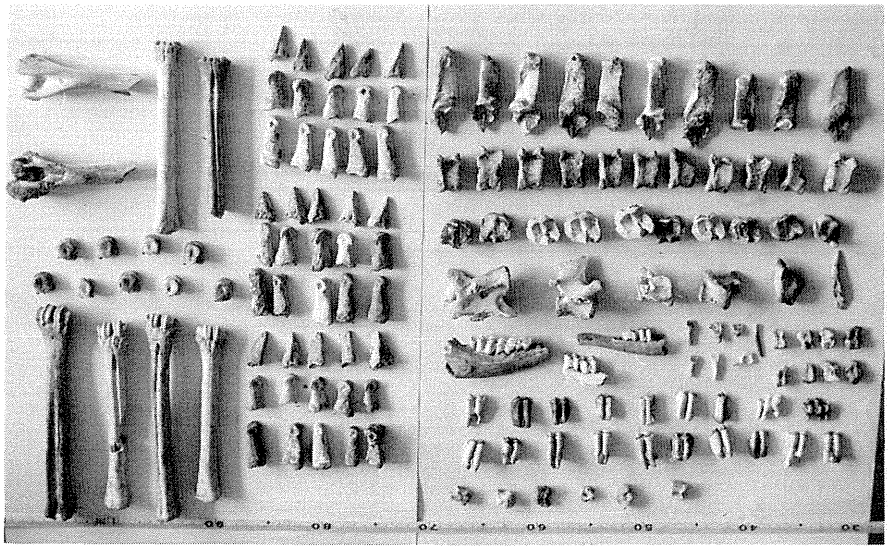
上：谷下産ワニ

中：現生のマライガビアルの頭部骨格
熱川のワニ園

下：谷下産ワニ化石の歯
現生マライガビアルの歯と同種である。



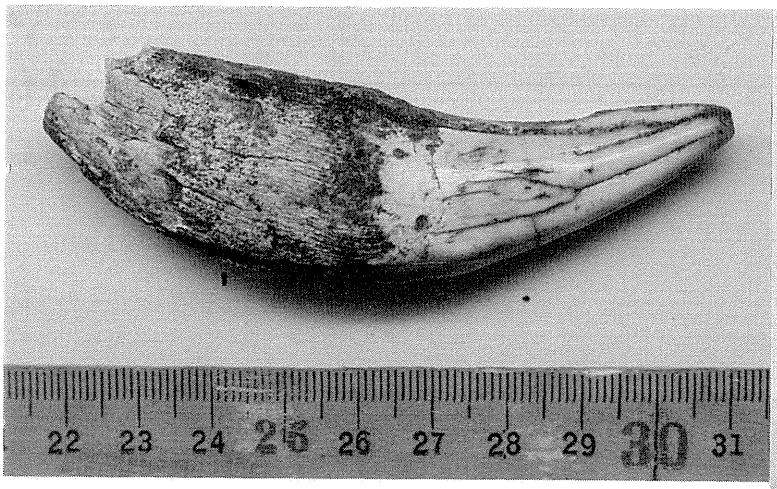


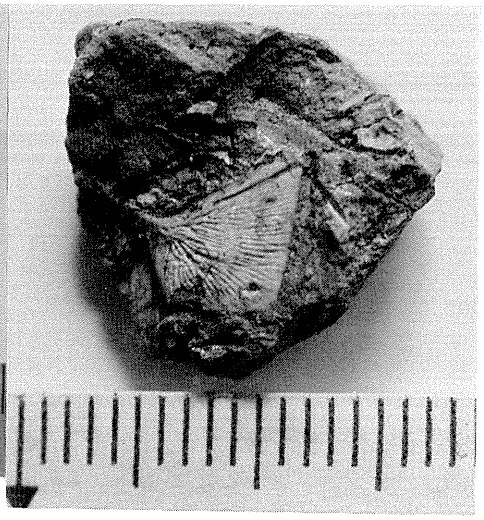


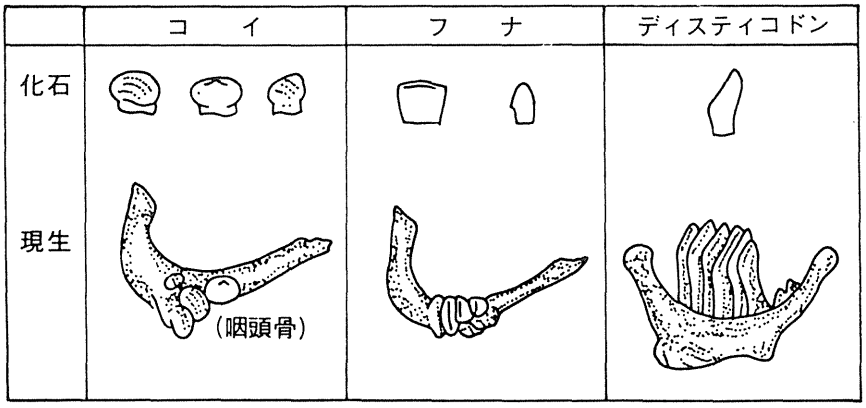
左：谷下産ニッポンジカ化石
ここからシカの骨片化石を約 1,000 個採取した。特に臼歯(写真右下)が多い。

左下：谷下産トラの歯化石
この他の肉食の獣としてはオオカミの歯が採取されている。

右下：谷下産淡水魚化石
写真はコイ化石の鰓蓋骨（さいがいこつ）いわゆる「えらぶた」の化石でコイは角ばっている。







谷下産魚化石の咽頭骨の化石と現生の比較図
咽頭歯というのは魚の咽頭部（のど）のところにある歯（？）である。
ディスティコドンは現在の中国の河川・湖沼に生息している。